

保健学専攻看護学分野カリキュラムマップ

凡例	科目区分 (再掲は薄色表示)	修士課程	修士課程	修士課程	博士課程	研究指導
		必修科目	選択必修科目	選択科目	必修科目	
		修士課程	修士課程	修士課程	博士課程	研究指導
		必修科目	選択必修科目	選択科目	必修科目	

学年			修士1年生				修士2年生				博士1・2・3年		
学修目標	修士課程 ディプロマポリシー	博士後期課程 ディプロマポリシー	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	1年	2年	3年
D-1. 実践	看護学の問題解決に必要な情報を集約する能力を身につけ、論理的に説明することができる。	国際的な場において、保健学に関連する知識や技術について、英語で論理的に説明することができる。					看護学特別研究					保健学特別研究	
	高度先進技術に関する知識を理解し、臨床で実践できる。	高度先進技術に関する知識・理解を実践の場面で応用・発展させることができる。											
C-2. 評価・創造	看護学領域で起こる現象の多様な課題を明確化し、解決に向けた研究を遂行することができる。	看護学に関連する問題点を明確化し、解決に向けた研究を企画・実行することができる。			基礎看護学特論Ⅱ 臨床看護学特論Ⅱ 発達看護学特論Ⅱ 地域看護学特論Ⅱ	基礎看護学特論Ⅱ 臨床看護学特論Ⅱ 発達看護学特論Ⅱ 地域看護学特論Ⅱ							
	看護学領域に関する現象から得られた情報を分析・総合し、改善への展望を考案することができる。	看護学の包括的かつより深い専門知識や技術を応用し、課題の解決に向けた新たな方法を提案することができる。			基礎看護学特論Ⅱ 臨床看護学特論Ⅱ 発達看護学特論Ⅱ 地域看護学特論Ⅱ	基礎看護学特論Ⅱ 臨床看護学特論Ⅱ 発達看護学特論Ⅱ 地域看護学特論Ⅱ							
C-1.適用・分析	学術論文の作成方法を理解し、看護学領域で幅広い課題を探索できる。	国際的な学術論文の作成方法を理解し、看護学領域で自立して研究を推進できる。	基礎看護学特論Ⅰ 臨床看護学特論Ⅰ 発達看護学特論Ⅰ 地域看護学特論Ⅰ	基礎看護学特論Ⅰ 臨床看護学特論Ⅰ 発達看護学特論Ⅰ 地域看護学特論Ⅰ							健康支援ケアシステム論Ⅱ 看護教育方法開発学Ⅱ 地域生活ケアシステム論Ⅱ 母子発達ケアシステム論Ⅱ		
	指導的な立場で活躍するための教育・指導の能力を習得するために、情報を集約することができる。	指導的な立場で活躍するための教育・指導の能力を習得するために、自立して情報を集約し、探求することができる。	基礎看護学特論Ⅰ 臨床看護学特論Ⅰ 発達看護学特論Ⅰ 地域看護学特論Ⅰ	基礎看護学特論Ⅰ 臨床看護学特論Ⅰ 発達看護学特論Ⅰ 地域看護学特論Ⅰ							健康支援ケアシステム論Ⅱ 看護教育方法開発学Ⅱ 地域生活ケアシステム論Ⅱ 母子発達ケアシステム論Ⅱ		
	看護学に適用できる科学的な研究方法、教育指導論、マネジメントの知識や方法について理解し、論理的に思考できる。	看護学に適用できる科学的な研究方法、教育指導論、マネジメントの知識や方法について理解し、自らの確に判断することができる。	看護研究方法論Ⅰ 看護教育論	看護研究方法論Ⅱ 看護教育論	看護組織・マネジメント論	看護組織・マネジメント論							
	英語での学術的情報を収集し、課題解決に必要な情報を理解できる。	英語での学術的情報をシステムティックに収集し、課題解決に必要な情報の総合的な分析と統合ができる。	看護研究方法論Ⅰ 看護教育論	看護研究方法論Ⅱ 看護教育論	看護組織・マネジメント論	看護組織・マネジメント論						国際プレゼンテーション	
B-1. 知識・理解	保健・医療・福祉の多様な課題を包括的に理解し、説明できる。	保健・医療・福祉の多様な課題について、包括的に理解し、新たな視点から理論に基づいて分析・解釈することができる。	保健学研究論 先端医療論	保健学研究論 先端医療論 保健医療とデータ科学							健康支援ケアシステム論Ⅰ 看護教育方法開発学Ⅰ 地域生活ケアシステム論Ⅰ 母子発達ケアシステム論Ⅰ		
	高度な先進技術に関する高度な知識を理解し、説明できる。	高度化する医療に対応する方法を理解し、説明できる。	保健学研究論 先端医療論	保健学研究論 先端医療論 保健医療とデータ科学							健康支援ケアシステム論Ⅰ 看護教育方法開発学Ⅰ 地域生活ケアシステム論Ⅰ 母子発達ケアシステム論Ⅰ		
A-2. 協働	豊かな人間性と高い倫理観を持ち、生命の尊厳や病む人の心を理解する深い感性を発揮することができる。	豊かな人間性と高い倫理観を持ち、組織の中でリーダーシップを発揮することができる。			医療と生命倫理	医療と生命倫理					ヘルスサイエンス論		
	他の分野に対する理解力と検討力及び語学力を鍛えることで、学際的視点を持ち、異文化交流することができる。		国際社会とチーム医療	国際社会とチーム医療									
A-1. 主体的な学び	人々の健康増進に寄与する強い意志を身につける。	人々の健康増進に寄与する強い意志を育み、自己研鑽できる。				医療安全管理学					ヘルスサイエンス論		
	自ら進んで看護学領域の課題に取り込む自律性を持ち、それを広く地域や国際社会に還元する姿勢を持つ。	保健学における新たな知的資源および科学領域を創出する意欲と、それを広く地域や国際社会に還元する姿勢を持つ。	保健学研究論	保健学研究論							ヘルスサイエンス論		
学修目標	修士課程 ディプロマポリシー	博士後期課程 ディプロマポリシー	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	1年	2年	3年
学年			修士1年生				修士2年生				博士1・2・3年		
アセスメント・プラン			初期評価				中間審査				最終試験		
											中間審査		
											最終試験		